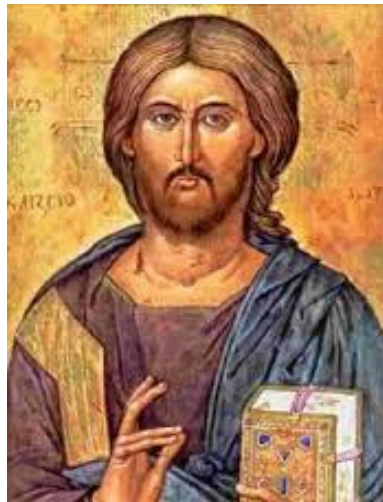
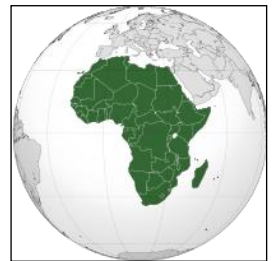


世界宣教は教会の使命

世界宣教の月 ① 2017年10月1日



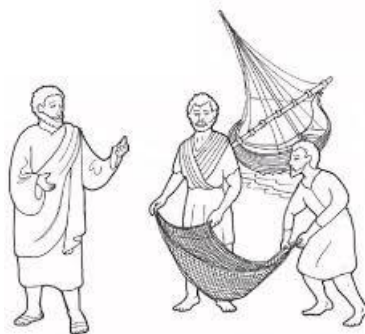
イエス・キリストは
全ての人のため
自分の命を捧げた



福音宣教することをためらわないで

「わたしが福音を告げ知らせても、それはわたしの誇りにはなりません。そうせずにはいられないことだからです。福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸なのです。それは、ゆだねられている務めなのです。

(使徒パウロ 1 コリント 9,16)



最初のあかしびと 聖ステファノ殉教者

イエスのそばに集まる弟子の中で、ステファノは「霊と知恵に満ちた評判の良い人」だったので、貧しい人々のお世話をする7人の助祭の一人として選ばれた。

天使のような顔を持ち、「不思議な業としるし」と強い説得力ある話をもって主イエスのあかしをし、多くの人々をひきつけたため、これをよく思わない人々によって訴えられ、最高法院に引き立てられた。

そこでもステファノはユダヤ人の歴史を引き合いにしながらメシアであったイエスを受け入れなかった当時のユダヤ教の指導者を批判したため、石打ちの刑に処せられた。この場にサウロ（後のパウロ）が立ち会っていた。



(使徒言行録 6・7 章)

10月は世界宣教の重要性を 思いめぐらす月です

キリスト信者にとって、世界宣教は最大のいつくしみのわざです。宣教の使命を果たすため教会は、いまだにイエスの福音を知らない人々に温かく語りかけ、物的・精神的のあらゆる側面の救済を図りつつ、主の愛、平和といつくしみを味わってほしいと望んでいます。

2017年の世界宣教の日に当たって、教皇フランシスコは、次の点に
関しての熱心な努力を呼び掛けておられます。

1. 和解と協調のために働く信徒の模範とあかしによって福音の力が示され、あらゆる不和・対立・利己主義・人種差別等から生じる「違い」の垣根を乗り越えて、すべての国と地域において真の平和・相互理解と共有のきずなが深まりますように。



2. 町の広場やあらゆる出会いの場で、イエスの生き方と価値観を広めるように、青年や若い世代の人に美しい証をよびかけています。

3. 世界宣教の多くの活動を発展させるために、教皇庁が設置している諸機関に対する理解と協力を求めています。特に、世界宣教に関心を高め、祈りを捧げ、人的・金銭的支援を行うことをすすめています。

4. 最後に、福音宣教の母である聖母マリアの取次ぎを求めています。聖霊と共に、聖母はいつも民の真ん中に臨在されています。マリアは福音宣教を行う教会の母であり、マリアなしには新しい福音宣教の精神を決して理解できないからです。

宣教する力を祈る

恵みゆたかな神よ、

あなたは、教会がすべての人の救いの秘跡となり、
キリストのわざを世の終りまで伝えることを望まれました。

世界宣教の日に合わせて祈ります。

世界のキリスト者が言葉と行いをもって
周囲の人々にいのちと愛の源であるあなたを告げ知らせ、
人類の平和と繁栄に貢献できますように。

わたしたちの教会も

あなたの望みにこたえることができますように、

光と力を注いでください。

福音に出会う恵みを与えられたわたしたちが

重荷と労苦を背負うすべての人びとと共に、

キリストから与えられた

喜びと希望を分かち合い

あなたに向かって歩いていく

ことができますように。

主イエス・キリストによって。

アーメン。

